

# ひとみきらきら！ 進んで学び、よく考える子の育成

——よりよい評価を目指して——

【子どもの願いや発達段階を大切にした 生活科と総合的な学習の時間】

八王子市立第四小学校主幹 徳 丸 幸 夫

## I. 研究の概要

### 【研究仮説】

子どもの願いを大切にし、発達段階にあった学習活動を工夫して適切な評価・支援を行えば、自ら課題をもち計画的に解決していく実践力に富んだ子を育成することができる。→（学校教育目標から）自主的で創造性のある子をめざす。

その実現をめざす手立てとして、以下三つの柱で研究を行った。

★思いや願い・発達段階を大切にする。

- バランスのとれた系統的な年間指導計画の作成、学習過程の四段階指導など。（本校では、特色として、心の教育から福祉・ボランティアがあげられる。）

★学習環境を工夫する。

- （継続的に繰り返し）出会う、かかわる。集める・選ぶ。話す・聞くなど。

★一人一人の学習状況を適切に評価する。

- 評価規準の作成→本時の見取り→個に応じた適切な支援→子どもの成長

## II. 研究の内容の一例：6年「チャレンジタイム」の5パターンの一つ

ピースワーカー ーII

學習活動30時間

	ふ れ る ⑤	つ か む ⑤
児童の活動	<p><b>ガイダンス</b></p> <p>どうしてピースワーカーを選んだの？ また、平和ってなんだろう。 考えてみよう。①</p> <p>ピースワーカーは、平和を自指しな人だ。</p> <p>平和に関する情報にふれて、自分の追究してみたい課題を探していこう。④</p> <p>ビデオからも戦争の悲惨さを学んだね。平和を考えていこう。</p> <p>グレイトホール（市立図書館）やインターネット、ビデオなどを活用する。</p>	<p>平和に関する情報の中から、自分の課題を決めよう。③</p> <p>平和と自分の生活にどのような関係があるのかな？</p> <p>なぜそれを課題に選んだのか、発表しよう。②</p> <p>戦争・兵器・平和活動      歴史・人物</p> <p><b>ピースワーカーⅡ</b></p> <p>戦争体験者調べ      スポーツから見た世界との関係</p> <p>ピースのグループの中で、自分の課題を発表する。質疑応答の中で、平和との関連を明確にする。</p>
具体的な評価規準	<p>平和を意識した自分なりのテーマをさがそうとすることができたか。 (Ⅰ-①)</p>	<p>自分なりに平和を意識した課題をもてたか。(Ⅰ-②) 振り返り、先を見通しながら学習をすることができたか。(Ⅰ-③) 中間発表では、伝える相手を意識して内容を効果的に表現することを心がける。(Ⅱ-④)</p>
方法	<p>○最初のテーマ決定理由カード ○振り返りカード ○行動観察や児童のつぶやきから</p>	<p>○各自の課題の発表・質疑応答 ○振り返りカードを通じた対話から</p>

(表の中のローマ数字や○数字は、本校の評価規準表に対応している)。

## 深める

19

### 自分で決めた課題を追究しよう。 ①⑤

#### <課題例>

- ・サッカー：韓国と日本の関係、ワールドカップ
- ・野球：戦争時の野球、日米野球。
- ・人物：アンネフランク、ナイチンゲール
- ・身近な戦争体験を聞く。(原爆被害者の会など)
- ・世界大戦の歴史を調べる。など



戦争時の日本野球は？  
(東京ドーム：野球博物館)

7月末には東急スクエアの  
八王子市平和展にも参加。



戦争ほど悲惨なものはない！  
(八王子空襲；郷土資料館)

### 中間発表会をしよう ②



(自己評価)  
(相互評価)

### 全体発表会をしよう ②

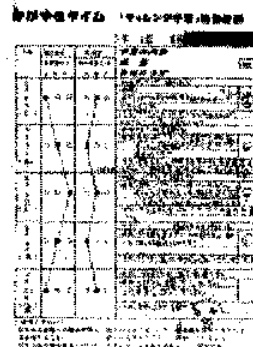
みんなに伝えよう。

## 生かす ①

### 自分の活動を振り返ろう

今までの自分の活動について、カードなどを見返しながら、1時間じっくり振り返える。

外部から戴いた評価カードを見返す。



### これからを考えよう

学んだことをもとに、  
未来を話し合う。  
時に、夢であってもよい

- ・自分が追究していることを主体的に発表したり、友だちの意見を聞いて学ぶことができたか。(Ⅱ-①③④⑤)
- ・友だちやインタビューした人から学ぶことができたか。(Ⅳ-②)
- ・自分の活動を振り返って、先の見通しをもつことができたか。(Ⅴ-⑤)

- 追究時の行動観察、
- 相互評価カード(中間発表会)
- お世話になった外部の方からの評価

- ・平和な社会を目指し、自分の生活や地域、世界の人々とおもいやりをもって共に生きようとする。(Ⅴ-②)

- 振り返りカード
- 活動報告

☆ピースワーカーは、(単元)チャレンジタイムの一つ。5, 6年生が教師5人(専科含む)の提示した単元から自分で課題を一つ選択し、課題を追究していく。そのほかの今回の選択肢には「日本文化、八王子テレメディアとの提携、高齢者との学習、古代人になろう。」等の内容の学習がある。

### Ⅲ. 成果と課題

#### (1) 成果

##### 〈子どもの変容〉

- 課題を自分で選択する場面を設定したこと、多様な発表場面を設定したことなどにより、主体的な学習意欲が継続した。また、発表力も身につけ、成就感をもたせることができた。
- 自己評価・相互評価・外部評価により「振り返る力」「先を見通す力」が身についてきた。他の教科学習においてもその成果が生かされ、自己教育力が伸びてきている。  
その力は、「進んで学び、よく考える姿」となり、「基礎・基本」の学習の定着にも生かされてきている。
- 地域の多くの人々（大人・幼児）や施設、自然と計画的・継続的にかかわることを通して、地域を愛する心、環境を大切にしていこうとする心、奉仕しようとする心など、大切な「心」を育むことができた。

#### (2) 今後の課題

- 子どもの思いや願い、教師のめざすものをもとに、専門家や地域の方々・保護者の意思もふまえた上で、三者が一体となった授業をさらに創造して行きたい。
- 全体の評価規準、単元ごとの評価規準を、子どもの具体的な活動の姿を見取りながら、さらに改善し、よりよい支援ができるように努力していきたい。
- 各教科における学び方、調べ方の指導をはじめ、子どもの願いに対応できる教材、環境をさらに整えていく必要がある。